

令和四年度 奈良県租税教育推進連絡協議会長賞

税金を愛せない私たち

西大和学園高等学校 一年 山田 和佳

父に税金を払うのはなぜか考えることはあるかと聞いてみた。「もちろん毎年三月に確定申告をお母さんと準備する時に考えるよ」と気取って答えられた時は驚いた。何気なく聞いたのに長くなるのかも、とも思った。事実、父の説明は理屈っぽいものだった。

「税金をきちんと払えるという事は、社会に暮らすお世話になった全ての人たちに恩返しをし、困っている人や支援が必要な地域、未来の日本人につながることでと思うよ」と話し始めた。横から母が鋭く突っ込む。「よく言うわよ。去年も国の仕事を信頼していいのかわからない時がある。税金上がり続けるけど払って託して大丈夫だよな、とかボヤいていたくせに」という合いの手が入った。

選挙があったばかりだから、私は家族でテレビを観て、増税反対や消費税撤廃といった政党の演説を聞いた。彼らの主張の意味がわからなかったのも、少しだけ調べたことがある。兄が参政権を丁度得たタイミングだったので、話してみようと思ったことも理由だった。兄は消費税を上げていく見通しにも、現在の所得税の累進課税方式にも賛成らしい。ただ、正直なところ、真っ当なルールだと思う反面、所得の再分配に重きを置いて課税されることがこの国を維持していくために良い方針なのか、私はうまく実感できていない。

家族ぐるみの友人がいたのだが、少し前に通信技術の会社の経営で成功したことがきっかけで、海外へ移住してしまった。その国の学校の仕組みも税金制度も随分と日本とは異なるという話を聞いたことがある。聞く限り英語での暮らしに慣れるのは大変だったようだが、楽しくやっているように見える。

うちの両親の会話ではないが、日本人はこれから、本当に困っている人や未来の世代のために、喜んで税金を払い続けられるだろうか。私は、大学を出て働き始めたとき、この国の税制と将来性を冷静に分析して、また考えていく家族や、未来に自分が恵まれるかもしれない家族のことも考えてみた時に、どのような選択をするのだろうか。

私は大学で留学をして専門的な学位を海外で取りたいと考えている。中学生の時に父の駐在で豪州の現地校で一年間を過ごした経験から、自然な選択肢として、そのような夢を持っている。だからこそ、余計に日本へ帰国して働こうと思うのかどうか分からない。

ただ、その時に医療や教育、年金などの制度をみながら、その要として税制の動向もきっと真剣に見直すだろう。母の入れ知恵通り、恐らく国の財政状態についてもシビアに考えてみることになると思う。その時、絶望的だな、などと感じるようだったら、選べるものだったら、この国で税金を払うことは選ばずに、友人家族のように永い海外移住を念頭に入れながら、外で就職することを志望するかもしれないと思う。またそのことが人生の選択肢に入るように勉学に励もうと思っている。あなたは税金を愛せますか？